高崎商科大学 地域創造フォーラム 上信線沿線地域と観光まちづくり

点から線へ資源つなぐ

文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に高崎商科大（高崎市根小屋町）が採択されたのを受けて、２日に開かれた同大の地域創造フォーラム（上毛新聞社共催）は「上信線沿線地域と観光まちづくり」がテーマ。シンポジウムや学生による事例発表を通して、上信電鉄沿線が世界文化遺産登録を目指す富岡製糸場をはじめとする観光資源に恵まれていることを再確認。参加した約150人は地域の力と大学の知を融合させ、地域の課題解決に生かす大切さを学んだ。

パネリスト
上信電鉄社長　笠原道也さん
高崎里山の会会長　白石隆夫さん
富岡市世界遺産まちづくり部長　高橋　修さん
◇コーディネーター
高橋修・高崎商科大短期大学部学科長

文部科学省
地（知）の拠点
地（知）の拠点整備事業vol.02

地域の魅力を再発見する大切さなどを学んだシンポジウム

大学の「知」を発揮

渕上勇次郎・高崎商科大学長

文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択された大学は全国51校で、私立では15校しかありません。高崎商科大が採択されたのは地域や関係する皆さまの本学に対する深い理解、温かいご協力があったからだと深く感謝しております。

ことし6月は「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録が期待されています。ことしは上信電鉄沿線の「観光まちづくり元年」になるのではないかと思っています。事業を契機に、これまで以上に地域との交流を深め、本学の知の力を発揮できるよう頑張っていきたいと思います。

シンポジウム 「上信線沿線地域の観光まちづくりへの誘い」

生かしたい非日常空間

現状

―上信電鉄のこれまでの取り組みを笠原社長にうかがいたい。

笠原　電気機関車のデキによるイベントが当社1番の売り。大正13（1924）年にドイツから購入し、現存する地方鉄道で最も古い部類に入る。事故で一時休んだが、復活させ、さまざまなイベント列車として運行している。今後も富岡製糸場をターゲットに、電車の色を客車風に塗り替え、デキで引いて多くの方をお迎えしたい。

笠原さん

高橋さん

今秋には高崎市の主導で上佐野町に新駅ができる。駅名を公募しており、活性化につながるよう願っている。

―新駅は11年前の高崎商科大前駅以来。ぜひ、良い名前を付けてほしい。高崎里山の会の活動について聞かせていただきたい。

白石　里山再生を目指し、高崎商科大とも一緒に活動している。山名貯水池の奥、高崎自然歩道が主な活動場所だ。

自然歩道の良い点は三つ。まず、自然が豊か。15分も歩けば、山の中。今なら木の根元にシュンランが花芽を出しているし、多くの自然に触れられる。観音山丘陵はヤマザクラが多い。奈良・吉野のサクラもソメイヨシノではなく、ヤマザクラ。「西の吉野、東の観音山」と言ってもいいのではないか。

二つ目は歴史の名所である点。本県に国宝は一つもないが、特別史跡が三つあり、それが山上碑、多胡碑、金井沢碑の上野三碑。特に山上碑は日本最古で、完全な状態で残っている。山名城や根小屋城の跡もある。三つ目が文化的な「石碑の路」。地元の信沢工業の先代社長が29基設置していた中に万葉歌碑があり、揮毫した書家が素晴らしい。自然と文化、歴史の宝庫が自然歩道。ぜひ、観光ルートの一部になってほしい。

白石さん

―富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録に向けた歩みをうかがいたい。

高橋　2003年8月に当時の知事が世界遺産のプロジェクトを立ち上げたのが始まり。富岡の街中は土地区画整理事業を進めており、街中を刷新するような事業を目指した。世界遺産登録のコア（核）となるのが富岡製糸場。価値を損ねないためにはある程度、周辺の建物などを規制する必要があった。区画整理で景観を守れるか、議論もあったが、06年3月に区画整理によって富岡で培われた歴史、文化を残しながら街づくりを進める「まちづくり計画」を策定。街中の回遊性を高め、製糸場周辺の蔵や洋館など歴史的建物を生かしていくことになった。

多くの観光客が訪れた場合に備え、製糸場から少し離れたところに3カ所の駐車場を分散させて整備した。製糸場まで歩く間に商店街や歴史的な建物がある。非日常を感じられる空間を生かしたい。

世界遺産登録に向けた経過は順調で、昨年9月に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関「国際記念物遺跡会議（イコモス）」の現地調査があった。ことし5月ごろにイコモスの勧告が出て、6月の世界遺産会議で登録の可否が審議される。

製糸場の観光客は昨年度、28万7千人。本年度は32万人になる見込み。製糸場へ来た人をいかに街中観光に誘導するか。

富岡は日本三大奇勝の妙義山もある。資源を結び付け、滞在時間を長くするのが課題。高崎商科大や民間の協力を得て、街中でゆっくり過ごしてもらえるようにしたい。製糸場内の解説を街中にも広げるなど、いろいろな切り口で観光まちづくりを進めたい。

―駐車場を整備しても、全員が車で来れば、いっぱいになってしまう。やはり公共交通の電車を利用してほしい。

笠原　地方鉄道の多くが利用者減に苦労している。鉄道会社はこれまでの歴史で「乗せてやる」という意識だったかもしれないが、これからは沿線住民に自ら溶け込み、コミュニケーションを図る必要がある。通勤、通学の利便性を高めるダイヤ編成にしたり、自宅から駅までをいかに結ぶかが課題。地域住民が「自分たちの鉄道」として、駅の清掃や除雪などのボランティアに積極的に関わっていただけるような体制を整えたい。高崎商科大の学生に協力してもらって車内の案内をしたり、無人駅を有効活用し、くつろぎの場にしたい。

通勤、通学の足だけでなく、「観光鉄道化」に力を入れている。90歳になるデキと富岡製糸場を活用し、地域の活性化につなげたい。製糸場はバスや自家用車で来る人が多いが、上信電鉄沿線は魅力的な資源が豊富。甘楽町の国指定名勝「楽山園」、下仁田町には国内初の洋式製鉄所跡やジオパークもある。数々の遺産は、皆さんに発見してもらうのを待っているはずだ。

―上信電鉄始発の高崎は、どうしたら魅力あるまちになるか。

白石　文学研究者の吉永哲郎さんが先日、万葉集と上野三碑に関する講演で「もっと地元にあるものを大切にしよう」と話されていた。吉井駅は「多胡碑前駅」、根小屋駅は「金井沢碑前駅」としたらどうか。新駅はぜひ、万葉集にちなみ、「佐野の舟橋駅」にしていただきたい。上信電鉄沿線の歴史はとても深い。歴史観光の視点から紹介できるといいと思う。

―点から線へ、上信電鉄を中心に広げていくといい。地名や歴史の話題もあったが、地元の人が意外と知らないことも多い。私たち大学も力を合わせ、観光資源や歴史を「見える化」していく必要があるだろう。さらに、県外の人に魅力を伝える「魅せる化」につなげるよう地道に取り組む必要がある。高崎商科大としても、観光まちづくりは人づくりということを再確認し、まちづくりの担い手になれる人材を育てる教育機関でありたい。

コーディネーターの高橋学科長

見える化、魅せる化を

上信電鉄沿線の活性化策について聴き入る参加者

展望

―富岡製糸場内はどのくらいの人数を受け入れられるのか。

高橋　製糸場は塀で囲まれており、入場できる人数は決まっている。築140年以上の建物もあり、2月の大雪による被害も出た。安全を確保すると、公開できる範囲は限られる。まだ整備が必要な中で、4月からは1日5千人に入場制限したい。個人には事前にホームページで混雑状況を示し、団体は予約が必要なので調整する。FM群馬の番組内や高速道のサービスエリアで混雑状況を案内してもらえるようお願いしている。情報を周知し、気持ちよく来場してもらえるようにしたい。

―駐車場を整備しても、全員が車で来れば、いっぱいになってしまう。やはり公共交通の電車を利用してほしい。

笠原　地方鉄道の多くが利用者減に苦労している。鉄道会社はこれまでの歴史で「乗せてやる」という意識だったかもしれないが、これからは沿線住民に自ら溶け込み、コミュニケーションを図る必要がある。通勤、通学の利便性を高めるダイヤ編成にしたり、自宅から駅までをいかに結ぶかが課題。地域住民が「自分たちの鉄道」として、駅の清掃や除雪などのボランティアに積極的に関わっていただけるような体制を整えたい。高崎商科大の学生に協力してもらって車内の案内をしたり、無人駅を有効活用し、くつろぎの場にしたい。

通勤、通学の足だけでなく、「観光鉄道化」に力を入れている。90歳になるデキと富岡製糸場を活用し、地域の活性化につなげたい。製糸場はバスや自家用車で来る人が多いが、上信電鉄沿線は魅力的な資源が豊富。甘楽町の国指定名勝「楽山園」、下仁田町には国内初の洋式製鉄所跡やジオパークもある。数々の遺産は、皆さんに発見してもらうのを待っているはずだ。

―上信電鉄始発の高崎は、どうしたら魅力あるまちになるか。

白石　文学研究者の吉永哲郎さんが先日、万葉集と上野三碑に関する講演で「もっと地元にあるものを大切にしよう」と話されていた。吉井駅は「多胡碑前駅」、根小屋駅は「金井沢碑前駅」としたらどうか。新駅はぜひ、万葉集にちなみ、「佐野の舟橋駅」にしていただきたい。上信電鉄沿線の歴史はとても深い。歴史観光の視点から紹介できるといいと思う。

―点から線へ、上信電鉄を中心に広げていくといい。地名や歴史の話題もあったが、地元の人が意外と知らないことも多い。私たち大学も力を合わせ、観光資源や歴史を「見える化」していく必要があるだろう。さらに、県外の人に魅力を伝える「魅せる化」につなげるよう地道に取り組む必要がある。高崎商科大としても、観光まちづくりは人づくりということを再確認し、まちづくりの担い手になれる人材を育てる教育機関でありたい。

課題解決できる人材育成目指す

COC事業

「地（知）の拠点整備事業」は文部科学省が2013年度から実施。自治体と連携して全学的に地域を志向した教育、研究、地域貢献事業を進める大学などを支援するもので、COC（センター・オブ・コミュニティー）事業と呼ばれる。

県内では高崎商科大の事業「『地と知から（価）値』を創出する地域密着型大学を目指して」が採択された。高崎、富岡両市と連携を強め、世界遺産登録を目指す富岡製糸場など上信電鉄沿線の観光資源を生かした「観光まちづくり」、地域の課題を解決できる人材育成などを目指す。

学内にコミュニティー・パートナーシップ・センター（CPC）を設立。17年度まで５年間にわたり、地域に特化した授業を増やしたり、学生が積極的に授業に参加できる仕組みも取り入れる。

同大専任教員による上信電鉄沿線とその周辺地域の観光まちづくりに関する調査・研究に対し、「地域志向教育研究費」として助成。これまでも取り組んできた小中学校の学習支援、高崎自然歩道（石碑の路）再生プロジェクトなどのほか、大学と地域の人材を有効活用する「双方向型人材バンクシステム」の構築、上州富岡駅での観光案内なども行っていく。

学生による事例発表

「石碑の路再生プロジェクト」久保田悠介さん

行政と地域の橋渡し

石碑の路は、上野三碑に数えられる山上碑と金井沢碑を結ぶ約５キロ。高崎市が管理する高崎自然歩道の一部で、地元で建設会社を経営していた故信沢克己さんが私費で29基の石碑を設置した。このうち19基が万葉歌碑だ。

５基の石碑が未設置のまま道路脇に残っていたため、私たちのゼミと高崎里山の会が協力して信沢さんの遺志を継ごうと、2009年からプロジェクトを始めた。12年８月に５基をお披露目した以降、石碑周辺の草刈りやごみ拾い、石碑の拓本取り、揮毫者の調査、簡易案内板の設置をしている。

設置された石碑とプロジェクトのメンバーら

活動を通じ、学生たちが歌碑に興味を持ったり、地域や行政の人と関わることでコミュニケーション能力を高めることができた。放置自動車の撤去を市に依頼したケースで、問題解決能力も養えた。

今後はガイドマップ作成や現地ガイドの養成を通じて石碑の路を地域資源として活用したり、未設置の10基の石碑を最適な場所に設置したい。COC事業の一環として、行政の求める文化資源開発、地域の望む環境保全活動の双方の橋渡しとなりたい。

「上信線応援プロジェクト～クリスマス列車運行への協力～」高橋佑太さん

観光鉄道化で乗客増

本県はマイカーの普及や少子化の影響で、地域鉄道の経営は厳しい。交通弱者の救済や地球温暖化対策、沿線地域の活性化のためには、国や自治体の財政支援によって存続させる必要はあるが、支援を受けるだけでは厳しい。イベント列車運行や観光鉄道化により、観光客を増やそうと、プロジェクトを考えた。

ゆるキャラやサンタ姿の学生が楽しませた列車内

高崎商科大はこれまでも、列車シンポジウムや銀河鉄道999号を通して、上信電鉄と連携してきた。協力関係を一層強めるため、昨年12月22日にクリスマストレインを運行。自治体もゆるキャラの着ぐるみ貸与に協力し、産官学連携が実現した。高崎―下仁田駅間の４時間の運行は最古級の電気機関車デキのけん引で、沿線の撮影スポットにも多くの鉄道ファンが集まった。

学生と上信電鉄で事前に内容を協議し、バルーンアートの練習をした。当日はクリスマスカード作りやビンゴゲーム、記念写真のプレゼントも好評だった。継続的な連携によって季節ごとのイベントを企画したり、参加者のアンケートも行い、家族ぐるみで参加できるような内容を考えていきたい。

「第10回たかさき雷舞フェスティバルへの協力」小林真実さん、笠原菜奈絵さん（右下）

「思い出」贈り達成感

雷舞は高知の鳴子踊りに高崎の特色を取り入れたダンスパフォーマンス。雷のように激しく舞う、ライブ（生）という意味もある。これまで高崎経済大や県立女子大が参加しており、10回目となる昨年10月20日、高崎商科大も初めて協力した。

県内外、台湾からも計35チームが参加。私たちは参加チームの踊る姿を撮影し、写真入りの参加証明書をプレゼントすることにした。10周年の記念を良い思い出として残してほしかったからだ。

力強い踊りが披露されたフェスティバル

事前に前年の様子のDVDを見て集団で踊る楽しさを理解したり、自分の担当するチームの特徴を調べ、「世界にひとつだけ」の証明書作りに取り組んだ。当日は雨でコンディションが悪かったが、互いに傘を差し合うなど協力して撮影した。

厚紙に写真を貼って折り紙などで飾り、手書きのメッセージを添えて郵送。各チームからお礼の手紙や寄せ書きが届き、喜んでもらえたのを実感できた。

会場設営などで協力、連携したり、チームワークの大切さを学んだ。雨という不測の事態に対応し、乗り越えたことで達成感があり、成長もできたと思う。